

「第 15 回国際口蓋裂・頭蓋顔面異常学会国際会議（GLEFT2025）」開会式

秋篠宮皇嗣殿下おことば（和文仮訳）

令和 7（2025）年 10 月 20 日

第 15 回国際口蓋裂・頭蓋顔面異常学会国際会議がここ京都で開催され、国内外の多くの皆様とともに開会式を迎えられますことを大変喜ばしく思います。

この国際会議は、口唇裂・口蓋裂及び頭蓋の癒合異常の治療に関わるあらゆる分野を網羅する会議です。歴史ある会議が日本で初めて開催されることを大変嬉しく思うとともに、これまで長きにわたりこの分野の発展に力を尽くしてこられた方々に、深甚なる敬意を表します。

口唇裂・口蓋裂は、おおよそ 500～1,000 人に 1 人に出生する疾患といわれ、世界的にもっとも多い先天異常の 1 つであると伺っております。また、幼少期のみならず生涯にわたって影響がでることもあり、そのケアが必要になります。そのことから、この治療は単一の専門領域だけで行うことができるものではなく、医師、歯科医師、言語聴覚士、コメディカル、コデンタルなど数多くの専門家による連携が求められます。いっぽう、多くの開発途上国では医療技術者の育成や多職種連携による保健医療サービスの質の改善など、多岐にわたる協力関係が求められていると伺っております。

こうした中、このたびの国際会議は、日本の「和」という考え方を盛り込み、「“和 Harmony”- 包括的クレフトケアと共同研究におけるハーモニーとコンセンサスを求めて」をテーマに、チーム治療と共同研究を主要題目とし、研究発表と活発な討論を行うことを目的として開催されると伺っております。その成果が、連携の強化と各関連分野の発展に大きく貢献することを期待しております。

おわりに、本国際会議において世界の臨床家・研究者間の専門分野を越えた交流が活発に行われ、口唇裂口蓋裂・頭蓋顔面異常学に関する研究が一層発展する契機となり、世界中の患者さんたちにより良い治療とより明るい未来がもたらされることを願っております。本会議と皆様のご滞在が実り多く、有意義で心優しいものとなりますことを祈念いたしまして、開会式に寄せる言葉といたします。